

第1学年 算数科 学習指導案

場 所：1年は組 教室

指導者：荒 井 拓 也

1. 学習名 どれくらい あるのか しらべてみよう ～かずしらべ～

2. 子供が主体的に学ぶ算数科の授業づくりのポイント

(1) 子供に実感させたい「算数のよさ」とは

本学習では、統計的な問題解決の素地を養うことをねらいとしている。資料にどのような特徴があるかを予想し、操作的活動を行いながらグラフを作成する。そのことで、実際にデータの特徴を捉える活動を行う。学習を通して、分類整理することのよさやグラフの有用性について気付けるようにし、論理的に問題解決することで達成感を味わえるようにしていきたい。また、子供たちにとって身近な問題場面を取り上げることで、「自分のあさがおについても調べてみよう」など、算数科で学習したことを日常生活に活用していけるようにしたい。

(2) 洗練させたい「数学的な見方・考え方」とは

「りんごが3個」「鳥が7羽」など、何がどれくらいあるかという、ものの個数を数える経験は十分にしている。本学習では、ものの種類が複数ある場合について取り上げる。同種のものを数えるよりも複雑な場面であるが、種類ごとに分類整理するとものの個数がより数えやすくなることに気付かせたい。また、自分が調べたいことに合わせて種類と個数を分類整理し、絵を用いた簡単なグラフなどで視覚的に表現することで、それらの特徴を見いだせることに気付かせていきたい。それによって、子供たちの「数える」ということに対する見方・考え方が洗練されていくと考える。

3. 学習目標

ものの個数について、絵を用いた簡単なグラフで表したり、それを読み取ったりして、特徴を捉えることができる。また、絵を用いた簡単なグラフを、身のまわりの事象の特徴を捉えることに進んで活用しようとする。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- ものの個数を、絵を用いた簡単なグラフに表すことができる。 - 絵の大きさを揃えたり、均等に配置したりして、個数の大小を正確に理解している。	ものの個数について、その大小関係を絵などで整理して表現することで、どれがどのくらい多いかなどを捉えることができる。	ものの個数を、絵を用いた簡単なグラフに整理することを楽しみ、身のまわりの事象の特徴を捉えるために進んで活用しようとしている。

5. 学習計画（全2時間）

第1次 つれた さかなは なんびき？（1時間）

- 魚のカードを、絵の大きさを揃えることや、均等に配置することに気を付けて、絵などを用いて整理して表現する。



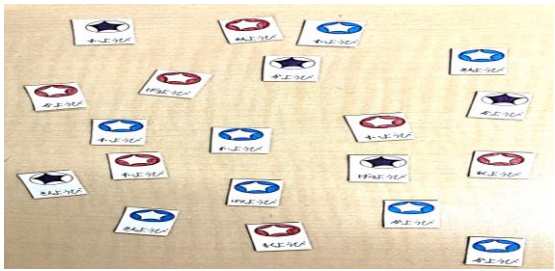
第2次 あさがおの はなは いくつ？（1時間） 本時2／2

- 何曜日に何色のあさがおが咲いたかを調べたカードを、自分が調べたいことがわかるように整理して並べ、読み取ったことを伝え合う。

6. 本時の目標

同じ資料でもグラフの書き方が変わること気付き、自分が調べたいことが明確になるように、絵を用いた簡単なグラフを用いて表現できる。

7. 本時の展開

子どもの学びの姿	留意点（・），評価規準（○）
1. 植木鉢に咲くあさがおの絵や、何曜日に何色のあさがおが咲いたかについて書かれている観察カードから、場面をつかみ、調べたいことを考える。 - 自分たちと同じように、たくさんあさがおが咲いたね。 - 何曜日が多いか知りたいけど、植木鉢の絵からはわかりにくいね。 - 色々な色のあさがおが咲いたね。どの色が多いのだろう。	あさがおの かんさつを していた おともだちが、 あさがおが さいた ようすを かーどに まとめました。 - あさがおのイラストと観察カードの見本を黒板に貼るようにして、本学習で取り上げる場面を子供が視覚的に捉えられるようにする。 「ぼくの あさがおは いっぱいさいたよ。」と、会話文の形で提示することで、「○○ようびに」や「××いろが」のように、穴埋めできる事柄を予想できるようにする。
【めあて】 よそうしたことが わかるような ぐらふを かんがえよう。	
2. あさがおの観察カードを操作して、絵を用いた簡単なグラフを作成し、自分の調べたいことについて考え、友達と交流する。  ① 曜日ごとのあさがおの数を調べる - 一番多い曜日がすぐにわかった。 - 木曜日は2つしか咲いていない。一番少ないね。 ② 色ごとのあさがおの数を調べる - 赤色と青色は同じくらいの数だと思っていたけれど、1つ分ちがった。 ③ 曜日と色とを一緒に調べる - 月曜日は赤も青も青白も1つずつ咲いたよ。 3. 学習を振り返り、日常生活においてグラフで表すことができそうな事象を考える。 - 自分たちのあさがおでも、何色がいくつ咲いたかを調べたい。 - グラフにして調べられることは、他にあるかな。	20枚のカードを配布し、手元で操作して考えることができるようにする。 - シールになったカードにして、子供たちが簡単にグラフを作成できるようにしておく。 - カードから得られる情報を2つにしておくことで、カードを並べたり、グラフを書いたりする時の視点が複数生まれるようにする。 - グラフ用紙の項目の所を各自が記入するようにしたり、項目数を選べるようにしたりし、自分が知りたいことに合わせてグラフを作成できるようにする。 ①や②について早く調べ終えた児童には、2つの情報を組み合わせてわかること（③）についても考えられないか問いかける。 ○自分で整理する視点を決めて、絵を用いた簡単なグラフを作成し、資料の特徴を捉えることができる。 （活動の様子や作成したグラフ） ①と②のグラフは、黒板でも提示するようにして、同じ資料でも視点によって複数の書き方があることを視覚的に捉えられるようにする。 - 統計的な問題解決のよさに気付かせるため、日常場面で同じように整理して考えられるものがないか考えさせる。